



◎環境防除交付金

**問** 交付金の内容について防除組合に支出するもので、公用地の防除の実施に対するものです。経費の採算性については今後防除組合と協議してまいります。

◎町営住宅

**問** 町営住宅長寿命化計画はどれくらいのサイクルで判断するのか

**答** 10年毎に、経過年数・耐用年数を考慮し策定しています。雨漏り等の突発的なものはその都度修繕を行っています。

◎水道

**問** 水道の有収率が下がっているが対策は

**答** 今年4月以降に漏水調査を実施し、6月に日の出地区、7月には南、西栄地区で発見しています。9月から市街地区で実施します。

◎小中学校

**問** 電子黒板は小中学校に何台あるのか

**答** 小学校には4台導入しており、デジタル教科書にも対応しています。中学校には導入していません。

◎外国語指導助手

**問** 報酬の基準はあるのか

**答** 語学指導等を行う外交青年招致事業（JETプログラム）の基準に基づき報酬を決定しています。

◎キャンプ場

**問** 使用料とテントの貸出状況について

**答** キャンプ場使用料は201万円の実績で、テント等の貸出料は5万円でした。



**問** 使用料収入が増加していることから、キャンプ場を指定管理に移行してはどうか

**答** 利用料収入が伸び、収支のバランスが取れるのであれば検討します。



# 総務経済常任委員会所管事務調査報告

本委員会は総務課、企画課及び教育委員会所管事項について担当者の説明を受け、質疑応答により調査を実施しました。

## 【総務課所管】

### ●調査事項

町有地の管理状況について

### ●調査結果

令和元年度末で役場・学校等で利用する土地は約72ヘクタール。売買等が可能な土地は宅地を含め約69ヘクタールとなっているが、優良賃貸住宅への貸し付けで市街地における売却可能な宅地は有効に活用されている。

今後とも、移住定住促進に向け、積極的な活用が望まれる。

## 【企画課所管】

### ●調査事項

空き家の状況と対策について

### ●調査結果

本町では、平成25年に35軒。平成30年は42軒と5年で7軒増加している。

令和2年度から空き家等対策計画を策定するとともに、空き家等対策協議会を設置し、適正管理に努めることとなっているが、景観を損ね、近隣住民の生活環境を害する空き家に対しては積極的に対策を講じるべきと考える。

## 【教育委員会】

### ●調査事項

教育委員会所管の指定管理施設について

### ●調査結果

生涯学習センターでは、障がい者施設の活動拠点として活用され、利用者が増加している。今後においては、施設を効率的に運営し光熱水費のコスト削減が必要と考える。



パークゴルフ場は、ちつくろ・キュービックコネクション・キャンプ場の相乗効果で利用者が増加している。子ども向けコースの新設、芝の維持管理等で努力がうかがえた。

キャンプ場は現在、教育委員会が管理しているが、これまでの管理状況を踏まえ今後、料金改定を含め業務の見直し等を検討すべきと考える。

## 総務経済常任委員会 道内政務調査を実施

10月26日から27日にかけて、厚真町と白老町「ウポポイ」へ視察に行きました。

厚真町は、2018年まで5年連続で転入者が転出者を上回る社会増を達成した移住定住施策の先進地で、子育て支援策にも積極的に取り組んでいることから、全国から視察が訪れていました。

しかし、平成30年に発生した北海道胆振東部地震によって山は崩れ、住宅地では地盤沈下が発生し、町の状況は一変しました。

人口は被災後から220人程減少し、広範囲で斜面が崩落した林地では、検討会議で再生に向けた協議が今なお行われています。



復旧工事現場の様子

防災担当者から「やっていない事は本番にはできない」という説明を受け、防災の意識づけの大切さを改めて感じ、議会でも防災行政の推進を支援していきたいと思えます。



厚真町役場内での様子

白老町に7月にオープンした「ウポポイ」では、博物館や工芸品の製作実演を見学し、アイヌ文化の理解を深めました。



工房での工芸品製作実演